

【日時】2016年11月6日(日) 9:30-17:00
【会場】千葉大学教育学部3号館3階
【対象】高校生

担当講師一覧

千葉大学医学部附属病院マススペクトロメリー
検査診断学部門/遺伝子診療部特任教授 野村文夫
講義「遺伝子・DNAと遺伝」

千葉大学医学部附属病院検査部副技師長 糸賀栄
講義「遺伝子関連検査の基礎」

千葉大学医学部附属病院遺伝子診療部
認定遺伝カウンセラー 宇津野恵美
講義「妊娠・出産のライフプランになぜ遺伝学的検査が登場したのか」

特定非営利活動法人クラヴィスアルクス代表 太宰牧子
講義「私の家族と遺伝性乳がん卵巣がん」

神奈川県立西湘高等学校 教諭 井上陽子



▲講義の様子



▲グループディスカッションの様子



▲全体の集合写真

APプログラム事業推進責任者
千葉大学教育学部教授 野村純

科学技術の進歩により、個々人の多様性が遺伝子レベルで示されつつある現在、これらの情報をどのように考えていけばよいかについて学ぶ良い機会となりました。皆で考えていくことの大切さを学んでいただけたと感じております。

【連絡先】

千葉大学次世代才能支援室
TEL・FAX 043-290-2584
Mail jisedai-ap@chiba-u.jp
HP <http://ngas-chiba.jp/>



APHP



メール

医療
kenko@asahi.com
水曜掲載

1分で知る 遺伝子⑦

がんは、喫煙などが原因で起きた遺伝子の変異が蓄積して発病するが、生まれつき遺伝子に変異があるために起こるがんもある。遺伝性のがんの存在を広く知らせたのは女優のアンジェリーナ・ジョリーさん。乳がんや卵巣がんになる確率が高くなる遺伝子変異が検

がんリスク 検査する？

査で見つかり、発病前に手術で乳房や卵巣を取った。もし、自分や家族が病気の遺伝子変異をもつ可能性があったら遺伝子検査を受けるか？ こんな課題に高校生が向き合う千葉大の特別講座が6日にあった。遺伝の基本や検査について講義を受け、姉を卵巣がんで亡くし、自ら乳がんを患い、患者会を設立した太宰牧子さんの体験を聞いた。「遺伝病は関係がない」と思っていたが、身近にあるかもしれないと実感した。「遺伝子検査は受けて終わりだと思っていたが、結果を知ってできることもあるとわかった」など、参加者の感想は様々だ。講座を一緒に企画した神奈川県立西湘高の井上陽子教諭は言う。「受験問題と違って正解はない。自分の問題になった時にどう乗り越えるか、考えるきっかけにしてほしい。人生で向き合う問題はほとんどそうだ」

(瀬川茂子)

朝日新聞 2016(平成28)年11月16日掲載
承諾書番号 A16-1918

本紙は朝日新聞の記事を引用しています。無断転用禁止。